



人工関節センター長  
本山 満

## 膝関節、股関節の手術に特化した専門外来

皆様こんにちは。人工関節センター、センター長の本山 満です。まだご存じない方もおられるかと思いますが、2022年5月から、杉山病院長のご承認により、人工関節センターを設立し、センター外来を始めております。毎週金曜日の午後3時から完全予約制で行っており、膝関節、股関節の手術に特化した専門外来であります。原則は紹介状のある患者様のみで始めておりますが、今後は手術の相談希望の患者様であれば紹介状がない場合でも予約が取れるようにしていく方針です。膝関節は本山が、股関節に関しては広島大学人工関節講座所属で股関節分野チーフの庄司医師と連携を取って外来や手術を行っております。このセンター外来の大きな特徴は一人当たり30分の完全予約制であるということです。手術を受けることを決めるということは、人生の中でも大きな決断の一つであると思います。人は知らないことや未経験のことは怖いものです。ましてや初めて手術を決めるとなれば計り知れない不安や恐怖を感じているものです。その不安や恐怖を少しでも軽減するには、歴史やトレンドも含めながら手術のことを正確に知ってもらう必要があります。ですので手術の説明には時間がかかるのです。通常の外来では一人当たり5-10分しか時間は取れませんので、このセンター外来は手術を考えている患者様には非常に有益です。これまでの利用者は安芸高田市、三次市、庄原市はもちろん、広島市安芸区や西区、岩国市などからも来院されております。今後も膝\*股関節疾患で困っておられる患者様のために、いい外来運用をしていきたいと考えておりますので、ご支援のほど宜しくお願い致します。

さて当院では2021年5月から、人工関節手術専用の手術支援ロボットアームを、**国内22番目**、

**広島県では初導入**し、最先端のロボット手術を行っております。現在まで約200例のロボット手術を行いました。大きな合併症やロボットの不具合などは今のところ認めておりません。当院の人工関節手術はこの10年間で、ロボットの導入だけでなく、術前術後の管理においてもかなり進歩しました。外来から入院時のオリエンテーションの充実が始まり、術中術後の出血量の減少、術後のリハビリ時の痛みの低減を目指したり、リハビリメニューの研究、クーリングや下肢挙上枕を活用した腫脹やむくみへの対策、さらに術後に使える鎮痛薬の種類を増加や適性使用の試み、術後下肢エコーによる合併症の早期発見、入院中の栄養指導、早期退院希望者への対応など、専門の医師だけでなく、看護師、理学療法士、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、事務スタッフなど多職種が連携し、意思統一を行うことができつつあるのではないかと感じています。今回の人工関節センターの設立が、多職種連携を進める上でのモデルとなり、吉田総合病院の柱の一つとなれるものと期待しております。



▲人工関節用ロボットアーム Mako (メイコー)

